

**馮 曉霞**  
**(Feng Xiaoxia)**



北京師範大学教授

北京師範大学教授、大学院博士後期課程教授、中国就学前教育研究会理事長、雑誌『就学前教育研究』の編集主幹。主な担当科目は就学前児童心理学、家庭教育、幼稚園カリキュラムなど。

これまでに担当した課題は全国教育科学計画「第九回五ヶ年間計画」、「第十回五ヶ年間計画」の重要課題である「中国幼稚園カリキュラム政策研究」、「中国 21 世紀就学前教育管理システムと政策研究」及び北京市「第九回五ヶ年間計画」、「第十回五ヶ年間計画」「第十一回五ヶ年間計画」の重点課題である「幼児主体性発達と教育」、「幼児主体性発達を促進する課題と教授研究」、「北京市農村における就学前一年教育義務化の実行性研究」等。

### **義務教育の均衡的発展と入学準備**

義務教育の均衡的発展に関わる問題が政府、公衆、学者達から多くの関心を集めている。研究者たちは理念、原則、施策及び現実上の問題、原因等の視点から教育の均衡的発展と教育公平問題を検討している場合が多い。小中学校の間の資源がおよそ均等的に配置されることさえできれば、義務教育の均衡的発展問題もほぼ解決できるという見方がこれらの研究から見られる。

しかし、もし就学前の教育を受けるチャンスが不平等であれば、入学準備に差が生じ、その違いが入学後の学習と発展に影響を及ぼすということを世界の研究で明らかにされている。更に義務教育を通して教育の平等を促進するという政府の意図にも支障が生じるであろう。

中国の家庭は伝統的に早期教育を重視している。しかし、家庭の社会的背景によって入学準備の差は存在するだろう。そこで北京市 6 校の小学校新入生のうち、家庭の社会経済的地位(SES)が異なる 150 人を無作為に抽出して入学準備について調査を行い、そして入学後一年目の小学校適応状況を追跡調査した。

結果によると、社会経済的地位(SES)が異なる家庭の子ども達の入学準備は、四つのすべての領域(数学、言語、学習資質と社会性)において差がみられる。差のある全ての項目の中で、社会経済的地位(SES)の低い家庭において、子どもの社会性の中の「自立的意識」と「社交性」の二項目において優勢を占めるほか、残りは全て劣勢であった。また、入学準備の差が入学後の学習順応にも大きく影響していたことも調査から明らかになった。

したがって、教育の公平性を図るには、義務教育の段階からの工夫では遅く、就学前の入学準備段階から、均衡のとれた発展を図ることが必要と思われる。このような工夫があつてこそ、不利な社会的環境に置かれた子ども達とその他の子ども達とが同じスタートラインに立つことが実現されるだろう。